

参 考 資 料

①	診療班スケジュール	240
②	済生会阪神大震災診療班名簿	241
③	災害援助派遣者登録施設一覧	243
④	診療班別受診患者数	243
⑤	対策本部の概要	244
⑥	独自の判断または自治体の要請等により要員を派遣した施設	245
⑦	救援物資一覧	245
⑧	新聞報道より	246
	毎日新聞(奈良版)	
	神戸新聞(社説)	
	ニュース済生	
⑨	診療班カルテ	254
⑩	灘高校周辺地図	255
⑪	東灘班搬入品一覧	256
⑫	東灘班患者に関する統計	257
⑬	中津病院搬入品一覧	257
⑭	「震災時における災害対策本部衛生部の活動(都市政策80号抜刷)」	259

① 診療班スケジュール

	済生丸診療班	東灘区診療班	幹事会等
1月 17日(火)			5:46 地震発生
18日(水)	13:00 松山港発→新岡山港へ		
19日(木)	1:00 新岡山港発 7:45 神戸新港着		
20日(金)	第1班		
21日(土)			対策本部設置
22日(日)			
23日(月)	第2班		第1回幹事会(東灘)
24日(火)			
25日(水)		野江班、泉尾班	
26日(木)	第3班		第2回幹事会(東灘)
27日(金)		中津班	
28日(土)			済生丸関連対策幹事会
29日(日)		富田林班	
30日(月)	第4班		
31日(火)		吹田班	第3回幹事会(東灘)
2月 1日(水)			
2日(木)	第5班	茨木班	
3日(金)			
4日(土)		奈良班	
5日(日)	第6班		
6日(月)		滋賀班	
7日(火)			
8日(水)	第7班	御所班	
9日(木)		和歌山班	
10日(金)		有田班	
11日(土)	第8班		
12日(日)		松阪班	
13日(月)			
14日(火)	第9班	中和班	
15日(水)			
16日(木)		静岡班	
17日(金)	第10班		
18日(土)		福井班	
19日(日)			
20日(月)	第11班	新潟第二班	
21日(火)			
22日(水)		宇都宮班	第4回幹事会(東灘)
23日(木)	第12班		
24日(金)		中津班	
25日(土)			
26日(日)	第13班		
27日(月)			
28日(火)			対策本部閉鎖

② 済生会阪神大震災診療班名簿（東灘区、済生丸）

	支部名	施設名	派遣者数	氏名 医 師	看護婦・士	医療技術員	事務他
東灘区 診療班	栢 木	宇都宮	5	植松 繁人 久保田 英司	柴田 浩子 小山 由佳		亀山 良弘
	新 潟	新潟第二	10	本間 明 佐藤 勇 船崎 俊一 鈴木 靖 青竹 康雄 橘 良哉	石井 和代 榊村 千恵子 早川 節子 坂本 照美 谷田 清美 山下 文子	北村 純夫 (MSW)	伊藤 孝憲
	福 井	福 井	5	吉井 仁 李 政秀	佐野 若代 田村 万寿美 杉山 慎太郎		梶山 浩之
	静 岡	静 岡	6	森田 孝一 藤岡 博道 加藤 一晴 東田 武	辻 恵子 松井 美貴 沖田 文子 溝口 寿代	中村昭宣 (薬剤師)	日置 康志
	滋 賀	滋 賀	6	山尾 一磨 芥川 茂祐 都築 英隆 橋本 尚志 宮脇 朋子 寺岡 章倫	西谷 ひろ子 江口 美也子 藤田 陽子 富田 佳子 土屋 順子 丸山 里美	柴井 幸雄 青山 隆子 高柳 和代	鈴木 辰美 小倉 正行 宮西 隆仁 若林 清志 (運転手)
	大 阪	中 津	19	原 中 西 板橋 源和 朴 孝憲 末廣 慎吾 中條 忍 北野 淳一 森 久也	有園 あきえ 安長 政代 辻野 美緒 木下 奈緒 中村 幸子 吉田 成子		宮部 剛美 村田 陸彦 市来 敏昌 山野 正則 山下 教夫 樋口 幸二
	野 江	吹 田	20	小西 弘起 吉田 仁彦 山神 秀世 安田 健司 橋本 健司	山西 爽子 亀崎 佳子 太田 幸枝 秋山 初美		梅木 征夫
	泉 尾	野 江	10	中島 道郎 田村 友彦 蓮井 正史 高橋 豊洋 高折 隆仁 中野 裕 森下 照雄 門脇 成也 上島 隆夫 宮崎 嗣郎 坂本 知三郎 坂本 弘道 原 満次郎 西川 泰紀	宮城 夕々 尾崎 章子 渡辺 茂美 西野 順子	上野 達也 (薬剤師)	高橋 克明 桑島 勲 山本 忠和
	富田林	泉 尾	13	中野 隆仁 森下 裕 門脇 照雄 上島 隆夫 宮崎 嗣郎 坂本 知三郎 坂本 弘道 原 満次郎 西川 泰紀	山口 和美 石原 富美 中島 貴美子 西本 己保子 横田 愛子	高谷 直知 南 一弘 (検査技師) (検査助手)	中村 廣光 坂本 高史 (運転手) (運転手)
	茨 木	富田林	18	布出 泰紀 山田 裕久 山田 義純 山内 潤 長尾 三津男 曾我 美純子	土居 富美子 嶋 雅弥 稲葉 ひろみ 渋谷 由紀子 藤井 祐子 辻本 今子 志田 裕子 藤原 美津子	湯浅 英治 (薬剤師)	土本 弘之 樋口 徳之 (運転手) (運転手)
	奈 良	茨 木	7	鴻池 義純 山内 潤 長尾 三津男 曾我 美純子	稲葉 ひろみ 渋谷 由紀子 藤井 祐子 辻本 今子 志田 裕子 藤原 美津子	松井 孝安 (薬剤師)	平井 康陽 日高 聡
	中 和	奈 良	11	恒川 山人 米田 岳史 今川 敦史 前田 稔彦	山下 晃司 (薬剤師)	吉村 秀一	

	支部名	施設名	派遣者数	氏名 医 師	看護婦	医療技術員	事務他	
済生丸 診療班	奈良	御 所	12	笠松 稔彦 藤本 秀一 朴 八嘉	津森 栄美 山本 佳子 川田 一子 板木 一子	上田 俊明 森岡 康矩	(薬剤師) (薬剤師)	徳田 初夫 奥 康司
	和歌山	和歌山	6	坂東 憲生 大浦 晴夫	松島 なみ子 河端 久美子	澤本 成史	(薬剤師)	竹田 正
		有 田	6	川口 伸也 玉置 卓也	新界 紀子 大崎 博子	中谷 和史	(薬剤師)	奥 正巳
	鳥 取	境 港	4	加藤 達生 前田 啓之	永井 節子 徳永 喜子			
	島 根	江 津	2	阿部 重郎	笹尾 孝美			
	岡 山	岡 山	35	守都 義明 岡本 康久 広瀬 周平 高田 眞治 井上 英雄 中田 憲一 戸田 耕太郎 塩出 純二 上村 雅之	大塚 あけみ 江原 優子 谷口 知恵子 市原 悦子 小川 洋美 伊庭 優子 片尾 容子 徳森 香智子 柿本 智子	酒井 律江 服部 豊知 難波 誠努 佐藤 安梅 市川 正之 四木 和之 米山 学 木村 泰治 千田 茂樹	(薬剤師) (放射線) (放射線) (臨床検査) (臨床検査) (臨床検査) (臨床検査) (臨床検査) (臨床工学)	秋山 敏夫 高中 和明 池田 憲一 花房 操 名越 良雄 中尾 豊美 福見 俊雄
	広 島	呉	4	伊藤 公訓 山田 勝士	中島 美佐緒 上本 由起子			
		広 島	4	野宗 義博 高砂 利行 萬 忠雄 湧田 幸雄 安藤 慎太郎 大谷 達夫 百名 英二 花園 繁美 飴山 晶 清谷 豊 真鍋 正博	逢坂 由紀子 黒田 美也 文子 智子 岡田 尚美 山村 由加里 松浦 久子 岡田 涼子 戸嶋 容子 西村 悦子 石川 悦子			
	山 口	山 口	11	萬 忠雄 湧田 幸雄 安藤 慎太郎 大谷 達夫 百名 英二 花園 繁美 飴山 晶 清谷 豊 真鍋 正博	逢坂 由紀子 黒田 美也 文子 智子 岡田 尚美 山村 由加里 松浦 久子 岡田 涼子 戸嶋 容子 西村 悦子 石川 悦子			秋本 憲志 河村 隆志 片山 隆司
	香 川	香 川	3	清谷 豊 真鍋 正博	石川 悦子			
		香 川	3	清谷 豊 真鍋 正博	石川 悦子			
済生丸	愛 媛	松 山	2	黒田 宗明	新藤 比登美			
	媛 媛	今 治	12	小川 裕道 藤本 健介 内田 学 中川 俊作	徳永 喜代子 阿部 早苗 高橋 佳美 松田 史恵	八木 政義	(薬剤師)	矢野 栄二 日高 績亨 真鍋 亨
		西 条	2	山中 俊作	丸尾 史恵			
	福 岡	福 岡	4	石川 裕章 筒井 伸一	大黒 能布江 有川 直美			
		八 幡	4	岩本 治也 城 由起彦	青木 美保 馬場 美恵子			
	佐 賀	大 牟 田	2	本多 信茂	三澤 幸枝			
		唐 津	2	山岡 邦宏	小松 公子			
	熊 本	熊 本	6	野村 裕常 宮島 伸治 平井 信孝	田中 三千代 浪床 智恵子 米村 奈穂子			
		熊 本	6	野村 裕常 宮島 伸治 平井 信孝	田中 三千代 浪床 智恵子 米村 奈穂子			
	済生丸		5					高木 勇 吉岡 辰夫 岡村 好数 植村 一文 木村 幸宏 新谷 文宏

	東灘班	済生丸班	合計
支部数	9	10	19
施設数	17	16	33
派遣者数	167	108	275

③ 災害援助派遣者登録施設一覧

小樽	新潟第二	茨木	今治
北上	三条	奈良	西条
山形	富山	中和	福岡
福島	高岡	御所	八幡
水戸	金沢	和歌山	大牟田
こども	福井	有田	二日市
宇都宮	静岡	境港	唐津
前橋	静岡医療	江津	長崎
川口	愛知	岡山	熊本
鴻巣	京都	岡山療護	日田
栗橋	中津	呉	日向
船橋	吹田	広島	鹿児島
中央	野江	山口	川内
向島	泉尾	下関	
神奈川	泉尾第二	香川	
南部	富田林	松山	61施設

④ 診療班別受診患者数

済生丸班	(人)	東灘班	(人)
第1班	238	野江班	89
第2班	180	泉尾班	80
第3班	88	中津班	45
第4班	138	富田林班	44
第5班	210	吹田班	93
第6班	232	茨木班	79
第7班	143	奈良班	77
第8班	144	滋賀班	80
第9班	130	御所班	68
第10班	109	和歌山班	27
第11班	111	有田班	27
第12班	150	松阪班	99
第13班	99	中和班	69
		静岡班	86
		福井班	76
		新潟第二班	77
		宇都宮班	73
		中津班	34
班合計	1,972	班合計	1,223
合 計	3,195		

⑤ 対策本部の概要

1. 災害対策本部の設置

済生会は、兵庫県南部地震災害対策本部を設置して効率的に災害援助を行う。

本部は、都道府県済生会支部・施設をもって構成する。

(1) 本部長は済生会理事とする。

(2) 同本部に副本部長を置く。

同本部に幹事会及び事務局を設ける。

① 副本部長…済生会病院院長会会長

② 対策本部事務局

・設置場所…大阪府済生会中津医療福祉センター（西館一階、第三会議室）

③ 幹事会の構成…災害地周辺の府県の病院長（済生丸関係の病院長を含む）

2. 援助の内容

対策本部は次の医療援助等の業務を行う。
当面二月末日までを目標とする。

(1) 済生丸の派遣等災害現場への医療支援被災地の患者等の受け入れ

(2) 兵庫県病院への援助

3. 構成

本部長…翁 理事長

副本部長…菊田病院院長会々長

幹事会（災害地周辺の済生会病院長、及び、済生丸関係病院長）

代表幹事…辻野 中津病院院長

武田 泉尾病院院長

中神 富田林病院院長（現地

東灘班 幹事

施設名	氏名
福井県済生会病院長	藤澤 正清
松阪総合病院長	藤森 健而
滋賀県病院長	井上 四郎
中津病院長	辻野 博之
吹田病院長	佐々田 武
野江病院長	古瀬 清次
泉尾病院長	武田 惇
泉尾第二病院長	中川 義隆
富田林病院長	中神 一雄
茨木病院長	藤江 隆夫
奈良病院長	島田健太郎
中和病院長	八倉萬之助
御所病院長	菊田 捷二
和歌山病院長	井関 良夫
有田病院長	長崎 靖彦

済生丸班 幹事

施設名	氏名
香川県済生会病院長	美馬 恭一
岡山済生会総合病院長	片岡 和男
岡山済生会総合病院 副院長・管理局長	岩本 一寿
広島病院長	角田 幸信
呉病院副院長	山田 勝士
松山病院長	田中 昭
今治病院長	梅田 政吉
西条病院長	常光 謙輔

対策本部事務局員

（交替制で勤務）

三村 隆雄（本部） 荒川 隆（本部）
久木田 四朗（本部） 武長 輝郎（本部）
高橋 輝雄（本部） 森 麻紀子（大阪支部）
剣持 博基（本部） 辻 淑美（大阪支部）
前三盛 隆一（本部） 近藤 祥子（アルバイト）
林 紀次（本部） 妙泉 順子（アルバイト）
矢吹 正樹（本部）

対策本部について

設置備品：専用電話、FAX、コピー機
1台、テレビ1台、ワープロ
（JDL 社より無償貸与）

渉外担当
美馬 香川県済生会病院長
（済生丸担当）

事務局長…目黒 本部理事

事務局…大阪府済生会中津病院医療福祉

センター内

住所…〒530 大阪市北区芝田2-10-1

4. 業務の勤務時間

a.m. 9:00 ~ p.m. 7:00

※土・日も開く

専用回線（直通）

TEL…06-372-0977
FAX…06-372-0988

⑥ 独自の判断または自治体の要請等により要員を派遣した施設

1. 県の要請

宇都宮病院	(須磨区 2/3～9)
福井県済生会病院	(芦屋市 1/25～28、2/6～9、18～21)
静岡済生会総合病院	(西宮市 1/29～2/1)
滋賀県病院	(灘区 2/21～23)
京都府病院	(芦屋市 1/19～21、2/1～3、5～7、9～11)
奈良病院	(東灘区 2/23、27)
中和病院	(東灘区 1/30～31、2/24)
御所病院	(東灘区 2/22、26)

2. 市の要請

横浜市南部病院	(長田区 2/11～23)
城東園〈特養〉	(西区 2/1～3、6～8) 介護職員を派遣

3. 医大チームに参加

神奈川県病院	(東灘区 1/21～2/3)
--------	----------------

4. 看護協会・薬剤師会の要請

三条病院	(兵庫区 2/13～18)
境港病院	(北区 2/3～4)

5. 施設として独自に参加

宇都宮病院	(灘区 1/21～26)
川口総合病院	(長田区 1/23～28)
栗橋病院	(長田区 1/24～29)
中央病院	(北区・灘区 1/20～26)
滋賀県病院	(長田区 1/19～20)
泉尾第二病院	(東灘区 1/22)
兵庫県病院	(灘区 1/20～26)

⑦ 救援物質一覧

●済生丸により搬入

①粉ミルク	約 1,200 キログラム
②ロングライフ牛乳	600 リットル (200 cc×3,000 本)
③紙オムツ	約 6,000 枚 (大人用) 約 10,000 枚 (子供用)
④生理用品	約 7,300 個

●兵庫県病院、ふじの里へ搬入

(1) 業者からの納入物品

電動ベッド	14 台
歩行器	5 台
車椅子	15 台
歩行補助器	5 台
壁式吸引器	5 個
酸素湿潤器	4 個
注射薬カート	2 台
おむつ 他	

(2) 吹田特別養護老人ホーム 高寿園からの納入物品

使い捨て食器、ウエットティッシュ、肌着、洗剤他

二月二十七日付神戸新聞社説に載った「手紙」の原文

済生会兵庫県病院

看護婦 塩崎 節子

その時、すべての「白衣の天使」は「白衣の戦士」になりました。そして、あの惨事を切り抜けたのかもしれない。

『阪神大震災』、思い出しても恐怖で凍ります。あの平成七年一月十七日午前五時四十六分、私は勤務先の寮で直撃を受けました。しかし、北区藤原台は、地盤が岩盤のため病院は崩れることなく、倒壊した家屋は一軒もありませんでした。ですが、死者五〇九〇人（更に増えると思いますが）を出した大地震が起こるなど夢にも思いませんでした。そして、何故神戸なのか……。

私は病院の六階の寮にいますが、最上階ということもあり最も揺れがひどかったため、自室の家具のほとんどが倒れ、食器は全壊し、本棚もテレビも飛ぶように落ちていきました。縦揺れ、横揺れが起こり動くこともできず、視覚、聴覚から入ってくる恐怖に頭のなかが真っ白になりました。とにかく、目の光景が信じられないのです。あの瞬間に聞いた物の壊れる音、崩れていく音は一生忘れないでしょう。この世の終わりで、崩壊の序曲のようでした。同時に停電し暗闇が襲ってきたため、悲鳴を上げる以外何もできませんでした。

しばらくして、自家発電装置が作動し視覚が戻ったので気を取り直すことができました。すぐに考えたことは安全な場所は何処かということでした。廊下に出たところすべての非常扉が閉まっており緊急事態発生の状況でした。寮の友人と集まり無事の確認を行いました。停電のため外からの情報が全くつかめなかったのですが、自家発電装置のおかげでテレビが使えました。画像は鮮明ではなかったのですが音声だけで地震発生のニュースを確認しました。ニュースを聞くあいだも何度も何度も揺り返しがあり、生きた心地がしませんでした。幸い実家とはすぐに連絡がついたのでお互いの安全が確認できた後すぐ不通となりました。少しおさまってくると必ず緊急出動の指令があると思い顔を洗い白衣に着替えているとすぐに看護部長から要請があり、ひとまず病棟へ行ったのですが、やはりそこも散乱して天井が一部剥がれていました。とにかく緊急外来を手伝いにいきましたが既に多くの人が殺到し、皆一様に動揺の色が隠せませんでした。しかし、この時阪神間が大惨事になっていたなどどうして想像できたでしょう。時間が経つにつけ阪神地区でのことが報道されて呆然としました。その日から三日間OFFだったのですが、非常事態であり出勤できない方が出てきたので代行で深夜、日勤深夜をすることになりました。一度部屋へ戻り後片づけをしていましたが、ただ悲しさでいっぱいでした。

再度出勤すると、病院、病棟はパニック状態でした。次から次へと生き埋めや下敷きになった人々が搬送されてきましたが、それでもこの北区に来ることができた人は幸運だったのです。更にパニック状態が深刻化し、交通網が遮断されてしまったのですから……。

患者からアナムネを取るにつけ目の前の惨状を知ることとなり涙が出ました。中央区をはじめとする大惨事の起こったところでは、負傷者は病院へ運ばれたのですが、病院も被害がひどく機能できる状態ではないにもかかわらず続々と負傷者が運ばれてきたそうです。そこではどうすることも出来なかったので患者は横に寝かされていただけでした。しかし、消防や警察のおかげで何とか医療可能な病院へ搬送できたのです。考えてもみてください、消防士、警察官、公務員、医療従事者すべて同じ被災者なのです。それなのにあの心ない報道には怒りがこみあげてきます。ワイドショーではないのです。つまらないことを聞く暇があれば一緒に助けるべきだったのです。確かに全国に地震発生のニュースを伝えることは大切かもしれませんが、県庁も、市役所も大被害を受けているのですから、それに変わって政府に迅速に情報を伝えることをしてくれなかったのでしょうか、そうすればいち早く自衛隊の出動が可能になったと思います。ただ避難するだけの報道のように思われてなりません。もっと自分たちのできることを最大限考えてほしかったと思っています。更に

情けなかったのは国会ではこの期に及んでまで粗探しをしていることでした。国会議員なら直接その目で確かめなさいと言つてやりたかった。マスメディアは専門職が何もしないとい報道しています。そのため責任を感じて自殺者が出てくる始末です。もうこれ以上の犠牲者は沢山です。今こそ人道にたった行為が必要とされているのではないのでしょうか。一度パニックに陥った人心を收拾することなどほとんど不可能です。もし收拾できるとしたら「時間」だけでしよう。

話は戻りますが、私は病院に缶詰状態だったので概況がつかぬうちに、アナムネを取っていくにつけ詳しく状況を知らしました。ある人は隣に眠っていた夫が生き埋めになり、ある人は母親が家の下敷きになり助けようとしたが思ったより速く火がまわり、目の前で助けを求める声を聞きながらどうしようもできず焼死されたそうです。この惨状が神戸を、阪神地区を襲ったのです。私は声も出ませんでした。北区は、六甲山のおかげでこの惨劇から生き残れましたが所々では被害がありました。東灘区では、ガス漏れのため避難勧告が出され、人々は北上してきて道という道は車でいっぱいになりました。

私は戦争を知りませんが、戦争が起こったようでした。しかし、本当の戦争はもっともつと酷いと思います。

一夜明け、神戸が瓦礫になっていました。あの美しかった街が一瞬にして廃墟となつて

しまったのです。何度テレビでみても実感がわきません。そして実際に見てきても信じられませんでした。私も同じく地震の直撃を受けたのですが、眠るところ、水、電気を失わなかったのが本当の被災者と言えないかも知れません。この災害は、多くの人命を奪い都市を崩壊させましたが人にとって一番大切なものは何かを認識させたいと思います。何気ない日々の生活こそ宝物であり、家は宝箱だったのです。家族、友人、隣人、失つてみて大切さがわかると思います。被害は大きく、私の家族は姫路にいたので被害はなく、親類も皆無事でした。そして友人も皆無事でした。しかし、姉の親友は東灘区に在住していたため家屋の下敷になり即死でした。それでも遺体の確認ができ、茶毘に付してもらえたのでよかつたと思います。数多くの遺体は、トラックに山積みになっており棺も間に合わず、運よく確認できても斎場が間に合わないのですから……。

今、少し落ち着いてきたので友人、同僚と話す余裕が生まれてきています。何が一番嬉しかったのか、ほかでもない人力の援助でした。己の危険も顧みず、見ず知らずの人のために助けにきてくれたことです。今まで災害など他人事のように思っていた自分を恥ずかしく思います。復興にはお金が必要ですが、そんな援助より手を差し伸べる援助こそ必要なのだと思います。また、改めて思ったことは白衣の重さでした。どんな時でも陣頭に

立っていかなければならないのです。不思議なことにそれが当たり前になってくるし、自然と体が動いていくのです。ともかく助けなければという思いに駆り立てられ、どんなに疲労していても搬送されてくる人のことを考えると、自分のことは後でいいのです。

私は白衣を着る人生を選択しましたが、今ほど幸福に思えたことはありません。最悪の中でも人のためにできることがあるのです。そしてその中に僅かでも希望を見だし、人を励ますことで私自身を励ましているのだと思います。白衣は、泣くことよりも立ち上がる力強さを与えてくれるのです。助け合い、いたわる心を思い出させてくれるのです。助かった人たちが朝起きたときに、看護婦のもつてきた暖かいタオルに涙し、「人の心の暖かさが身に染みた」と話されました。そこにあるのは、人としての心、だけです。それこそ看護の真実の姿でしょう。

まだまだ語り尽くせませんが、私は得がたい体験をしたと思っています。騙った考え方も知れませんが本当にそう思うのです。阪神大震災で、人間も、自然も大宇宙のなかのほんの一駒だということを見たような気がしました。起こるべくして起こったのか、今となつては神のみぞ知るところでしょう。

人は、生死をかけた瞬間から食欲なまでに生を渴望し、その時こそ、生命の最も輝く瞬間なのかも知れません。

平成七年一月三十日

⑨ 診療班カルテ

初診日 7年 1月 日

避難場所名

氏名 年 月 日生 (歳) 性別 男・女

住所

主訴

前医 _____ 診断、処方

薬物アレルギーの有・無

診断名

所見 処置、処方

引き継ぎ事項

☐ 急変のときは、すぐ近医受診のことと説明

☐ 後日 _____ 科受診を説明

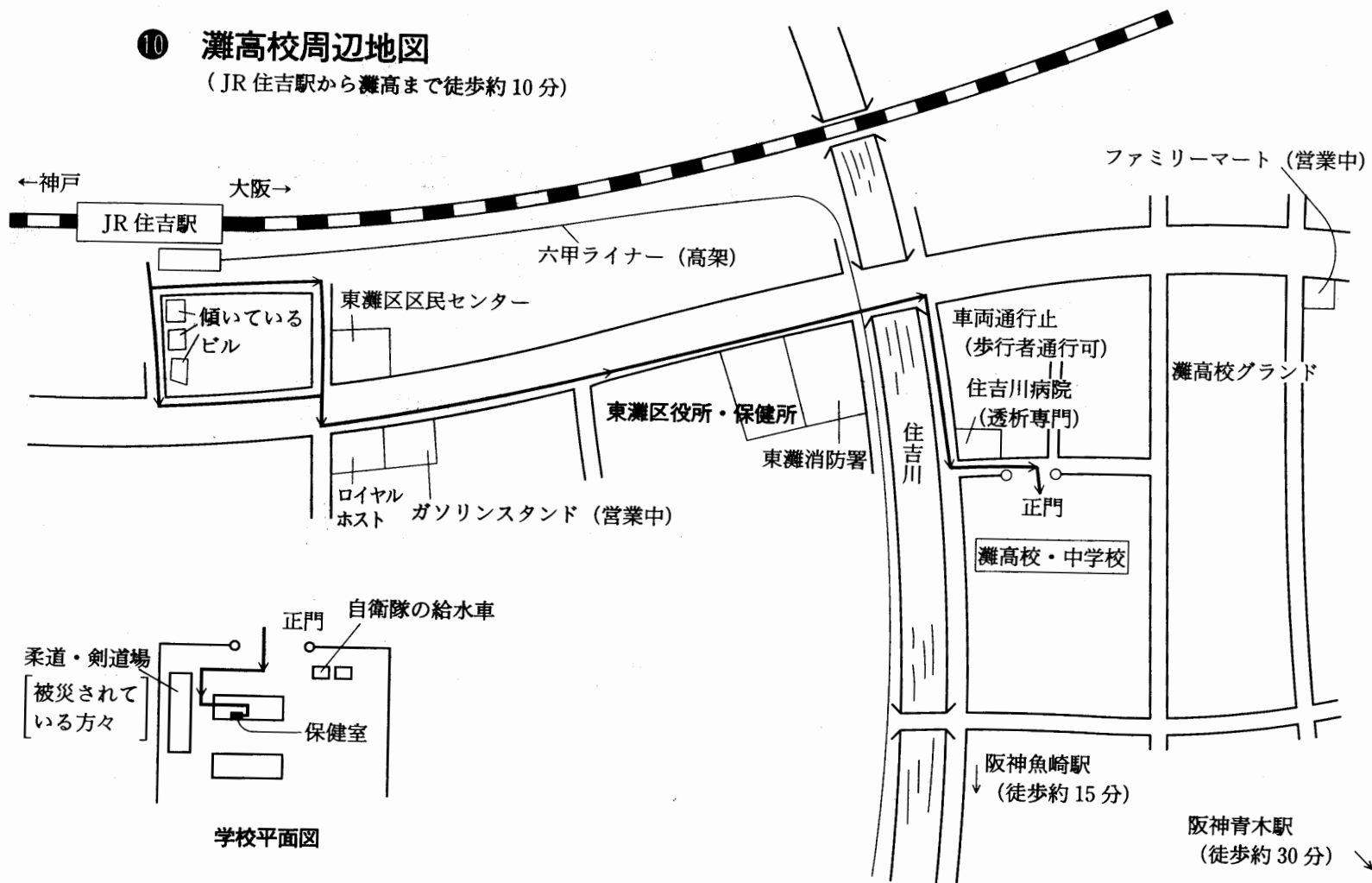
☐ _____ 日再診

初診医サイン _____

月 日		サイン
月 日		
月 日		

⑩ 灘高校周辺地図

(JR 住吉駅から灘高まで徒歩約 10 分)



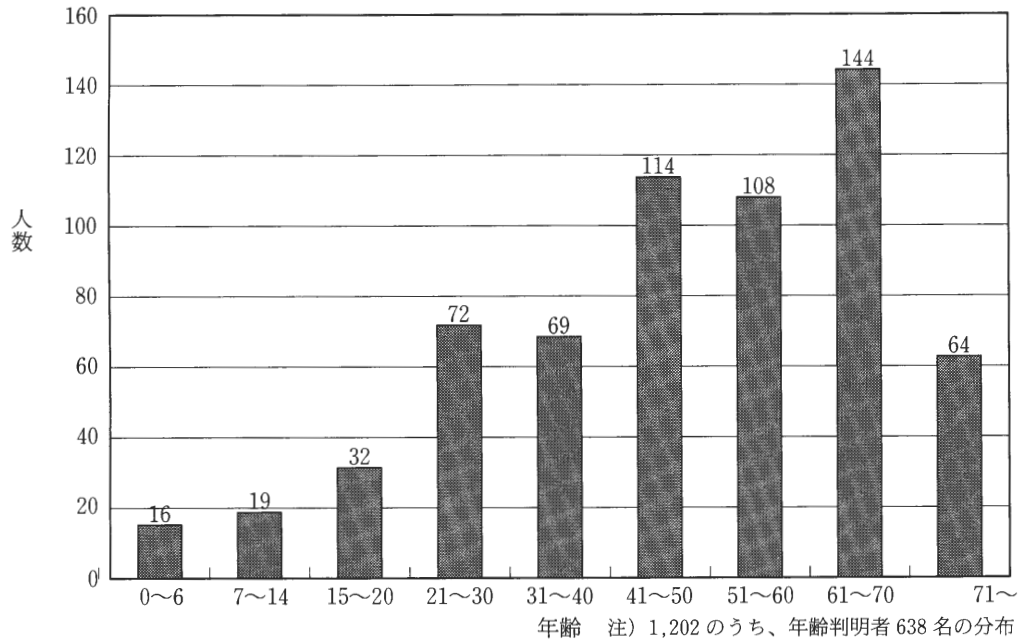
① 東灘班搬入品一覧（灘高校保健室内）

【平成7年 2月16日現在】

番 号		搬 入 数	備 考
	(1) 診療機材		
1-1	血圧計	2台	御所病院1、1
2	血球計算機【リース】	1台	東亜医用電子より無償貸与（2/16業者引取済）
3	鉗子立て（2/14）	1	
4	オートクレーブ（2/14）	1	MAC-230
5	カスト（2/14）	2	
	(2) 器材等		
2-1	携帯電話（1/29、1/31）	各2式	ムーバF25B電子バック ムーバF25B移動機 ムーバF25B標準キット
2	携帯FAX（2/9）	1台	
3	簡易ベッド（2/7）	3台	パラマウント KC-102（1750×649）
4	寝具（2/7）	6組	中津病院
5	電磁調理器（2/4）	1個	国際電業社寄付
6	鉄鍋（2/4）	1個	国際電業社寄付
7	電気ポット（2/4）	3個	国際電業社寄付（松下1、象印1） 松下1
8	延長コード（2/4）	1本	国際電業社寄付
9	ビニール傘（2/8）	9本	滋賀県病院×4
10	腕章（2/7）	12個	黄（本部）×9、白地×緑文字×3
11	済生会旗	1個	中津病院
12	立看板「済生会病院診療班」	5個	灘高1、道路4
13	電気ストーブ（800W）	2台	中津病院
14	自転車	2台	中津病院（白）×1、富田林病院（黒）×1
15	自転車用前照灯	2台	
16	自転車空気入れ	1台	中津病院
17	携帯テレビ	1個	中和病院（返却不要）
18	体温計（水銀式）	5本	中和病院（返却不要）
19	メートルグラス 30ml	1個	中和病院（返却不要）
20	カセットコンロ	1個	茨木病院
21	製剤識別便覧 1994年版	1冊	中和病院（返却不要）
22	薬剤識別コード事典平成5年版	1冊	不明
23	今日の治療薬 93年版	1冊	中和病院（返却不要）
	(3) 食品類等		
3-1	ごはん	470食	
2	スパゲティ	50食	
3	親子丼	50食	
4	牛丼	40食	
5	中華丼	50食	
6	八宝菜	50食	
7	ビーフシチュー	50食	
8	おでん	80食	
9	カップラーメン	50食	
10	インスタント味噌汁	470食	
11	カレー	150食	国際電業社寄付
12	いろいろ野菜スープ	30食	
13	水（2リットル×6本×10箱）	60本	
14	缶詰 牛肉、豚肉	50個	
15	缶詰 マグロステーキ	12個	
16	漬物（さくら他）	5袋	
17	のり	50袋	
18	うめぼし 1kg入	2個	
	(4) 消耗品		
4-1	カレースプーン	300本	
2	カレー皿	300枚	
3	味噌汁碗	500客	
4	飯碗	500客	
5	皿	400枚	
6	箸	500膳	
7	紙コップ	560個	

⑫ 東灘班患者に関する統計

○受診者の年齢別分布



⑬ 中津病院搬入品一覧

H 7.1.27

●搬入物資

持参品	数	持参品	数
カルテ（内科）	50	電気ストーブ	2
罫紙	4	インスタントカメラ	1
赤鉛筆	24	乾電池単1	10
ボールペン	24	マジック（細の赤青）	各1
ノート A4	5	〃（太 〃）	各1
消しゴム	10	電気コード 10 m	2
模造紙	13	軍手	12
懐中電灯	2	ビニールヒモ	1 巻
自転車	1	ゴミ袋 30 l	100
		90 l	50
ドクターバッグ	2	弁当	7
ゴミ箱	2	ウーロン茶（個人持参）	2
紙コップ	30	紙オムツ	100
腕章	4	デポマスク	50
カメラ	1	〃 手袋	50
12 枚撮フィルム	5	シート	1
24 枚	3		
寝具（含シーツ）	6	治療器具	一式
〃 用スノコ	2	医薬品	
（水入り）ポリ容器 10 l 用	13		
パーテーション	1		
済生会旗	1	シーツ（持参）した方がよい。	

●搬入医薬品

メーカー	ヤクヒンメイ	OUT	サンワカガク	シンパス	
バイエル	アダラート	360	ユートク	セクール	1000
バイエル	アダラート L錠 20 mg	240	モリシタルセル	ソフラチュール	30
タナベ	アドナ錠 30 mg	180	サンテン	タリビット点眼液	* 5 ml 30
チュウガイ	アモバン錠 7.5	60	ワコウドウ	ダイアップ坐剤 10	10
マルピ	エリスロシン錠	360	キヨウワ	ナウゼリン坐剤 60	10
ダイ1	クラビット錠	180	メイジ	フクゴウ (複合) トローチ	240
シオノギ	ケフラルカプセル 250 mg	360	トーアエイヨー	フランドルテープ S	60
シオノギ	コランチル顆粒* ヒート	360	ニホンカヤク	モムホット	250
シオノギ	コルヒチン錠	100	シオノギ	リンデロン VG 軟膏	* 5 g 10
チュウガイ	ジゴシン錠	60	ゼリア	レシカルボン坐剤 [新]	20
タケダ	セルシン錠 (2 mg)	180	タナベ	アドナ静注 (25 mg)	* 5 mlA 20
スミスクライン	タガメット錠 200 mg	120	キヨウワ	イノバン注 (100 mg)	* 5 mlA 10
タケダ	ダーゼン 10 mg 錠	180	シオノギ	ケフリン (1 g)	* V 10
ニツケン	テオドール錠 100	240	フジサワ	ジギラノゲンC注	* 2 mlA 10
キヨウワ	ナウゼリン錠 10	180	オオツカ	セイリ食塩液 (500 ml)	* PB 10
エーザイ	ニトロール錠	240	タケダ	セルシン注 (10 mg)	* 2 mlA 10
フジサワ	ニバジル錠 4 mg	120	シミズ	ソリタ T 3 号 (200 ml)	* B 10
ライオン	バファリン	180	シミズ	ソリタ T 3 号 (500 ml)	* PB 10
キヨウワ	バセトシンカプセル (250 mg)	360	アツブジヨ	ソルコーテフ	* 100 mgV 10
タケダ	ピオフェルミン R	* ヒート 180	ダイ1	トランサミン注	* 250 mg 5 mlA 20
ベーリンガ	ビソルボン錠	180	エーザイ	ネオフィリン注	* 2.5 % 10 mlA 10
シオノギ	ビーエル (PL) 顆粒	240	ミノファゲン	ネオミノファージェンシー [強力]	* A 10
ベーリンガ	ブスコパン錠	360	サンキョウ	ノルアドレナリン	* 0.1 % 1 mlA 10
フジサワ	ブリンペラン錠	360	タケダ	パンスボリン静注用 1 g	* V 10
ガイギー	ボルタレン錠	180	タケダ	ビタシミン注 (100 mg)	* 1 mlA 10
ブラウ	ボララミン復効錠 6 mg	120	ベーリンガ	ブスコパン注	* 2 % 1 mlA 20
サンキョウ	ボンタールカプセル 250 mg	360	オオツカ	ブドウ糖 (5 % 20 ml)	* PA 10
レダリー	ミノマイシンカプセル	120	オオツカ	ブドウ糖 (5 % 500 ml)	* PB 10
ダイ1	メブロン錠 (50 mg)	96	ダイ1	ブドウ糖 (20 % 20 ml)	* A 10
タケダ	ユーロジン 2 mg 錠	60	フジサワ	ブリンペラン注	* 0.5 % 2 mlA 10
ヘキスト	ラシックス錠	120	タケダ	ベストコール静注用 1 g	* V 10
サンキョウ	ロキソニン錠	180	サンキョウ	ペンタジン注 15	* 15 mg 1 mlA 10
マルピ	ロペミンカプセル	60	メイジ	ホスミシン S [静注用] (2 g)	* V 10
カケン	アドフィード	300	ダイ1	ボスミン注	* 0.1 % 1 mlA 10
メイジ	イソジンガーグル	* 30 ml 50	オオツカ	ボタコール R (500 ml)	* B 10
スミトモ	インテバン坐剤 50	30	オオツカ	メイロン (20 ml)	* 7 % A 10
オオタ	グリセリン浣腸液 (50 % 60)	10	ヘキスト	ラシックス注	* 20 mg 2 mlA 10
ブラウ	ゲンタシン軟膏	* 10 g 10	ゼリア	レプチラーゼ S 注 (1 ml)	* A 20

震災時における災害対策本部衛生部の活動

(神戸市衛生局長)

坪井 修平

はじめに

神戸市では、平成元年十一月に、「神戸市保健医療計画」を策定し、地域中核病院構想を含めた医療施設の計画的な整備、一次・二次の体系的な救急医療体制の整備、高齢者に対する保健事業等、市民の健康の確保を図ってきた。

そこへ、ほとんど誰も予想もしなかった阪神・淡路大震災。平成七年一月十七日午前五時四十六分、瞬時にして五千五百名の尊い生命と全半壊・焼二十万棟、四十二万世帯という未曾有の大災厄をもたらした。医療機関も例外ではなく、神戸市内だけでも全半壊・焼の病院十七、一般診療所三百二、歯科診療所百八十八に達した。そのため、被災市民に対する十分な医療提供が不可能となり、国内外の各種個人・団体ボランティア、自治体から多大の人的・物的支援を仰いだ。

I 震災による影響とその対応

1. 医療施設の壊滅的打撃

震災直後の市内の医療機関の多くは、情報網や交通手段の寸断等により患者の転送や医療スタッフの確保が十分に行えず、また、診療器材の損傷、ライフライン(水、電気、ガス)も途絶えていた中、各医療機関においてボランティアの協力や独自の工夫により患者の診療を行うなど、市民の救助活動に最大限の努力を行った。

衛生部としては、患者の転送先情報を医療機関や消防局へ流すとともに、ライフラインの途絶により医療機関から人工透析用の水の供給要請が続く、水道局に医療用水の確保を依頼したほか、院内調理が不可能な医療機関から入院患者に対する給食要請があり給食の配送等の支援を行った。

また、被災により不足していた医師・看護婦等を派遣する等人的支援も行った。

(1) 被災六区(東灘、灘、中央、兵庫、長田、須磨)の開設状況をみると、一月二十六日で、病院七十一施設中六十施設が開設、一般診療所では、千五四施設中三百四施設、歯科診療所では六百一施設中わずか八十九施設のみが開設されていた。

(2) 市民病院群(中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター)

ア. 中央市民病院

中央市民病院は、本市の基幹病院であるが、建物、設備、医療機器に大きな被害を被ったもののライフラインの途絶の中で、千人近い入院患者へのケア、救急外来患者への対応に懸命の努力をした。

神戸大橋の部分破損や、市内交通状況の悪化もあり、救命救急センター本来の機能は、十分発揮できなかった。その後、医療機能の復旧に努め、正常機能を比較的早く回復したものの、ポートライナーの不通等の影響が大きく、外来患者数は減少していたが、徐々に以前の水準に戻りつつある。

イ. 西市民病院

被害の大きかった長田区にある西市民病院においては、本館の五階部分が崩壊し、そのため入院患者一名が死亡する事態となった。また、入院患者を他病院へ転送するとともに、殺到する救急外来患者を診療せねばならず、さながら野戦病院の状況であった。

現在は、長田区総合庁舎内に仮設診療所を設け、一般外来と二十四時間救急外来を行っ

ているが、十一月頃には、比較的被害の少なかった新館の仮再整備を完了させ、外来機能に加え、若干の病床と人工透析・手術等の機能を持ち、二次的な救急も行えるように努めていく。

西市民病院の本格的な再建については、外部の学識経験者、医療関係者を含めた西市民病院復興検討委員会にて、多角的に鋭意検討しているところである。

ウ、西神戸医療センター

西神戸医療センターは、比較的被害の少なかった西区の西神ニュータウンにあり、被災地からの救急患者や外来患者、人工透析患者が急増したため、開設準備中であつた病棟を前倒しで開けたり、人工透析も最大四回転を行った。

各病院は、被害の状況や置かれた環境に大きな差異があるが、それぞれ残された医療機能を最大限に活用することに努めた。今後は、西市民病院の復興や病院経営の立て直しという大きな課題に向けて努力していかねばならない。

2. 保健医療活動

(1) 救護活動

震災当日より、急増する避難所の被災市民に対し、個人・団体・民間ボランティアをはじめ、日赤、自衛隊、医師会、自治体、国・公立・市立・民間病院からの派遣職員など大勢の人々の協力のもと、救護班を編成し、保健所を拠点とした救護活動を開始した。一月

二十六日には、厚生省の指示に基づく全国の都道府県からの応援も加わり、常設救護所百二十五カ所、巡回班二十四班という救護体制が確立した。巡回班のピークは一月二十一日の四十九班、救護所のピークは二月七日で百三十九カ所であつた。

その後、被災医療機関の復旧が進み、また慢性疾患が目立つようになり、救護体制から地域医療体制へのスムーズな移行が課題となつた。避難所、医師会、救護班との調整を保健所が行い、避難住民の医療需要に的確に対応しながら、救護体制の終息を図つていった。三月一日以降救護所を半減し、さらに四月一日以降1/3とし、四月末日をもつて完全に終息した。

初期の救護班の受け入れにあたつては、①避難所の状況の正確な把握、②交通渋滞のなかでの救護班搬送、③医薬品の確保・集積・仕分け及び搬送、④宿泊場所の確保及び食事の提供などの課題があつた。

また、歯科の活動についても、他府県の歯科医師会、ボランティア等の協力を得て、避難所における仮設歯科診療所の設置及び避難所巡回歯科診療を行った。

(2) 精神保健

震災後、「交通遮断で医療機関へ通院できない」、「診療所が開いていない」、「薬が切れた」、といった相談が多くの方から保健所に寄せられた。地域の多くの精神科診療所が被害を受けて受診不能状態となつたり、また、

症状が再燃し、避難所では生活できないケースも増加した。そこで、被災の大きかつた東灘、灘、中央、兵庫、長田、須磨の六保健所に地域精神保健活動の拠点として、地元医療機関、他府県の応援を受け、保健所精神科救護所を設置し、通院患者の医療を確保するとともに、急性症状の患者の治療を行った。

また、長期化する避難所生活でイライラ、不眠、将来への不安といったPTSD（心的外傷後ストレス症候群）に対処するため、避難所への精神科巡回医療を実施した。さらに、ノーマルレスポンス（正常なストレス反応）も精神保健の対象ととらえ、被災者全員を対象にPTSDの啓発冊子を配布し、こころのケアを図つた。また、ボランティアの燃えつき症候群を予防するため、講演会や研修会を開催してきた。

(3) 医薬品業務

震災当初は、建物倒壊や交通網の寸断などの影響により、医薬品・衛生材料は、質量ともに十分ではなかつた。そのため、直ちに、市より発注するほか、民間団体や厚生省を中心に地方公共団体等より寄贈を受け、徐々に充足させてきた。

寄贈された医薬品は、兵庫県、神戸市で発注した医薬品とともに、救済医薬品集積センター（産業貿易展示館のち国際展示場内）に集積した後、保健所を通じて各救護所へ配送し、救護所の医療活動に使用した。

震災後一週間は、輸液・抗生剤・解熱鎮痛

剤・風邪薬・消毒液・強心剤・湿布薬の需要が多く、それ以降は胃腸薬や糖尿病治療薬・降圧剤等の慢性疾患に対する薬の需要が増えた。概ね期間を問わず出荷傾向にあるものとして、風邪薬・うがい薬・トローチ・精神安定剤・催眠薬・下剤・解熱鎮痛剤・抗生剤があり、一カ月後よりビタミン剤の出荷が認められた。供給医薬品の種類として、①医家向医薬品五百五十二種（内用薬二百六十五、外用薬百四十、注射薬七十九、輸液剤三十七、消毒薬三十一）、②一般薬二百五十種、③衛生材料百六種、④その他五十五種（生理用品おむつ、マスク、ミルク等）がある。

これらの多くの医薬品の活用及び管理、集積センターから保健所・救護所等への迅速な搬送に多くのボランティアの協力があつた。

①一月二十三日～三月三十一日、日本薬剤師会 延べ百九十名、兵庫県病院薬剤師会 延べ七十九名計延べ二百六十九名、②一月二十三日～四月二十八日、製薬メーカー 三十六社 延べ八百九十五名、薬品ディーラー 四社 延べ五百五十八名 計延べ千四百五十三名

(4) インフルエンザ予防対策

神戸市では、以前よりインフルエンザ流行期にインフルエンザ様の風邪患者から咽頭ぬぐい液を採取し、ウィルス分離検査を実施し、感染症サーベイランス事業とあわせ正確な流行状況把握に努めていたが、震災前の平成七年一月十二日にA香港型インフルエンザウィ

ルスを検出し、今後寒さが厳しくなれば、流行の恐れがあると注意を呼びかけていた。

震災後、避難所等での集団生活の長期化等により、インフルエンザの流行が懸念されたため、一月二十五日、二十六日の二日間、国立予防衛生研究所長等の専門家からなる調査班を編成し、被災地における流行状況調査を実施した。

調査では、いわゆる風邪の患者の増加はみられたが、インフルエンザの患者発生は、散発的なものにとどまっており、一律に、インフルエンザワクチンの接種を行う緊急性は乏しいとの結果を得た。

しかし、避難生活の長期化も予想されたため、流行予防と高齢者の罹患、その重症化、合併症の併発等を予防する目的で、六十五歳以上の高齢者で希望者に対して予防接種を実施した。

接種は一月二十九日から二月十六日までの間、厚生省接種班及び神戸市医師会の協力を得て行った（千六百四十九人接種）。

二月十六日以降は、接種を希望する者に対して、従来から「一般勧奨予防接種」を実施している地域医療機関での接種を勧奨した。

このほか、他の地方公共団体の協力を得て、うがい薬、ガーゼ、マスク等を確保し、避難所に配布するとともに、うがい、手洗いの励行、マスク使用について注意を喚起した。

(5) 保健婦による活動

震災発生直後から、救護活動や医療班との

連携による、避難所巡回健康相談、在宅療養指導を行った。

一月下旬より、全国の自治体から毎日約百名の保健婦の派遣協力を得て、在宅ねたきり者、ひとりぐらし老人等の安否確認や避難所における巡回健康相談を実施し、避難者の健康状態の把握と支援を要する対象者へのケアの提供、風邪その他の感染症予防のための啓発、精神的不安を有する避難者の健康相談、避難所での生活リズム確立のための健康教育の実施、保健・福祉・医療情報の提供などを行い、対象者の健康維持回復のための活動強化を図った。

現在、避難者の生活基盤が避難所から仮設住宅等に移行していくことによる、健康・福祉ニーズへの対応、さらに在宅療養者への継続的な訪問指導の実施、地域の医療機関・訪問看護ステーション等の連携による適切な医療・看護の提供などの充実強化を図っている。

(6) 健康診査

震災の被害を受けた市民の従来の健康的な生活を取り戻すため、避難所及び仮設住宅等において、健康診査を実施し、健康不安の解消及び疾病の予防と早期発見を図り、医療機関への受診勧奨を行った。

避難所住民健診は、被害の大きかった六区（東灘、灘、中央、兵庫、長田、須磨）の避難所八十八カ所（小・中・高校等延べ百四会場）で三月十六日から三月三十一日まで実施した。内容としては、問診、血圧測定、尿検

査、血液検査、胸部X線検査、医師による健康相談、保健・栄養相談であり、四千六百六十四名の受診があり、結果は、「異常を認めず六百九十名（十六・六％）、要指導千七百二十三名（四十一・四％）、要医療千七百五十一名（四十二・〇％）」であった。

仮設住宅の住民健診は、従来の健診の体制を基本的に踏襲しながら、仮設住宅設置地域を含めて実施を始めている。

(7) 巡回栄養指導

被災市民に対し食生活自立へ向けてのアドバイスを行うため、香川・岡山両県より栄養指導車を借り上げ、仮設住宅等を巡回し、栄養指導を行っている。一回当たり、四十～五十名の参加者があり、調理実習・試食会を行い、好評である（全区において、四十五回実施予定）。

3. 生活環境衛生活動

(1) 防疫

① 避難所等の防疫対策

避難所、仮設トイレ等の衛生状況の悪化等に伴う感染症流行を防止するため、一月十八日から防疫用車両、器材、薬剤の整備、集積を開始した。

上水道を始めとするライフラインの途絶や避難所等のトイレの数の不足などから衛生状態の悪化が懸念されたため、保健所は一月十九日から避難所の衛生状態の現況や被災の状況を把握し、防疫用器材、薬剤の供給、更には、必要に応じて、消毒作業や避難住民自ら

による保清、消毒作業の実施等について指導を行った。

具体的には、保健所を拠点に、伝染病の感染源、感染経路対策として、延べ七百五十九班（実人員二千二百四十三人、うち他都市応援六百八十四人）が作業に従事し、避難所延べ六千五百三十二カ所、公衆便所延べ二千六百十三カ所、その他下水道分断部や廃棄物集積場など延べ百二十四カ所に対して防疫活動を実施した。

これらのほかに、衛生状態不良箇所の消毒、清掃作業協力について、兵庫県ベストコントロール協会などの民間団体、企業から申し出があった。この申し出を受け、各区の被災状況や衛生状態、必要とする作業等について、各保健所が情報提供することにより積極的な活動が実践でき、大きな防疫効果を生んだ。

(2) 入浴機会の確保

震災により百九十四施設あった公衆浴場のうち百十六施設（六十％）が全壊・全焼または半壊・半焼の被害を受け、また、内風呂の家庭においても電気、水道、ガスの復旧に時間を要したため、市民の入浴機会の確保が、公衆衛生上大きな課題となった。このため、自衛隊野営風呂、仮設シャワーの設置、開設可能な公衆浴場への燃料の斡旋とタンクローリーによる水の補給等を行った。

特に、自衛隊野営風呂は十六カ所、最大時一カ所当たり入浴者数約千人／日と多く、被災者に大変喜ばれた。また、公衆浴場も八十

四施設が再開されるまでに至った（五月三十日現在）。

(3) 食品衛生等監視業務

① 避難所の食品衛生対策

震災当初、電気、水道、ガス等のライフラインが壊滅状態にあり、また市内のほとんどの弁当調製所等も大きな被害を受けていたため、避難所に必要な大量の弁当・パンなどは、関東以西全域から調達されることになった。一部は大阪空港まで空輸されたが、市内及び市内に入る道路は交通渋滞をきわめ、弁当等が調理されて以後、各避難所に配達されるまでかなり時間を要した。

避難所でも、配達されてからの保管などが適切に行われる必要があり、また、ボランティアによる炊き出しも多く見られたことから、避難所の総合的な食品衛生対策を実施することとした。すなわち、弁当調製所の衛生対策として、①調製施設の衛生監視及び検査（市外調製所については、調製所を管轄する自治体に衛生監視を依頼）、②衛生確保の観点からのメニューの選定、③配送ルート・時間の改善（製造所からの直送等）、④製造から喫食までの時間短縮の観点から、復旧にあわせて市内弁当製造業者への切り替えを、また、避難所の衛生対策として、施設管理者等に対して、①避難所における弁当の製造日時の確認と適正保管の啓発、②弁当保管用冷蔵設備の設置指導、③避難所住民及び炊き出しボランティアに、調理器具の消毒方法等について

衛生啓発及び消毒薬等の配布などを実施している。

②食品・環境衛生関係営業施設の営業状況等調査及び衛生指導

露店、自動車による飲食店やライフライン復旧に伴い、営業再開する食品・環境衛生関係営業施設の衛生確保のため、これらの営業実態調査を近隣府県市の食品衛生監視員の応援を得て実施し、露店等に対する衛生指導、ビルなどの受水層式の給水設備の衛生管理などについて衛生指導を行った。

(4) 避難所の環境衛生対策

①毛布の乾燥・クリーニング

避難者の避難所における生活が長期化するにつれて、寝具の衛生確保の必要がでてきたため、乾燥車による毛布の乾燥及び集配クリーニングを実施した。

(5) 被災動物の保護収容対策

震災により飼育されていた犬等が放浪することによる市民への危害発生を防止するため、これら動物の保護収容等の対策を実施する必要性がでてきた。このため、(社)神戸市獣医師会に被災動物の救護活動を要請した。これを受け、(社)神戸市獣医師会、(社)兵庫県獣医師会、(社)日本動物福祉協会阪神支部の三者が中心となって兵庫県南部地震動物救援本部を設置した。

本市は救援本部と協力し、多数のボランティアの協力を得て、①放浪動物の保護収容、②避難所で飼育されている動物に対する餌の

配布、③負傷している動物の収容・治療、④飼育困難な動物の一時保管、⑤所有者、新たな飼育者探し、⑥その他動物に対する相談等を実施した。

4. 火葬対策

震災による死亡者の火葬業務については市営斎場であらかじめ設備の点検を行い、一月十八日からフル稼働に入った(三カ所・五十一炉)。県警により確認された死亡者数は一月二十日現在で三千人を超え、市営斎場の火葬能力(百五十件/日)をはるかに超えており、葬祭業者はもちろん、遺族自らの輸送による火葬のほか、可能なかぎりの手段で対応せざるを得ない状況にあった。

これに伴い、一月二十一日より国、県の支援体制のもと、自衛隊協力による他都市輸送を始め、兵庫県下をはじめ、京都府下、大阪府下、岡山県下などの広域的な各市町の協力を得て遺体の火葬を行った。

また、遺族による他都市斎場の利用は、さらに広域にわたり、全国的規模で行われた。この結果、一月末までには、震災による死亡者の火葬はほぼ終了することができた。

II 今後の課題

1. 被災市民が心身ともに健康を取り戻せるよう支援していく

(1) 震災で被害のあった民間医療機関の再建支援等を行い医療施設の早期復旧を図る。
(2) 避難所、仮設住宅や在宅の被災者の健

康状態の安定を図るため、巡回健康相談や生活改善指導等を行うとともに訪問指導、訪問看護を行うなど、保健事業の充実を図る。

(3) 長期化する避難所生活や、生活環境が異なる仮設住宅入居者、被災した子供のこころのケアは、これから問題化することが予想される。

そのためには、保健所で行ってきた精神保健相談活動の充実だけでは対応できないことから、現在、「地域こころのケアセンター」の設置を準備中である。この「地域こころのケアセンター」と保健所が連携を保ちPTSD(心的外傷後ストレス症候群)も考慮しながら、地域精神保健活動を展開していく。

2. 大規模災害に対応しうる救急医療体制の整備をすすめる

(1) 災害時に情報、医薬品、スタッフなどの拠点とする耐震構造をもつ防災拠点病院を誘致する。

(2) 市民への医療サービス向上を図るため、被害状況、医療機関情報の一元化など、行政側と医療機関並びに医療機関相互の連携強化を推進する。

(3) 消防局、自衛隊との協力による患者搬送、医薬品、水等の搬送のシステムを確立する。

(4) 広域的な都市間協力体制の推進、ボランティア受け入れ体制の整備を図る。

おわりに

神戸市内の避難者は、ピーク時二十三万名を数え、電気・水・ガスの提供が途絶した中、急性伝染病や食中毒の発生が心配された。海外の専門家より疑念が抱かれる程であったが、幸いにも両者ともその発生は抑止された。その後、ライフラインの復旧、仮設住宅の建設ピッチが上がると共に、その数は減少の一途を辿っている。とは言っても、現在もなお二万余の避難者を抱え、仮設住宅の方々も含め、その健康管理は、衛生局にとっては、最優先課題である。

今後は、多数のボランティアグループの支援の申し入れもあり、行政側とボランティアが一体となって、この課題に取り組んでいきたい。

これからの防災体制の見直しのため、多数の支援者のご厚意に応えるためにも、震災の記録集を残すことも重要な責務と考え、その編纂に着手したところである。

最後に、被災された人達に対し、改めてお見舞い申し上げますと共に、関係各位の皆様には、十年の歳月を要する完全復旧に努めている神戸市に、今後とも引き続きご支援、ご協力下さいますようお願い致します。

表 1 被災 6 区の医療施設の開設状況

〔6 区：東灘、灘、中央、兵庫、長田、須磨〕

	一般診療所 (全数：1054)		歯科診療所 (全数：601)		病 院 (全数：71)	
	開設数	開設率	開設数	開設率	開設数	開設率
1/26	304	28.8 %	89	14.8 %	60	84.5 %
4/27	895	84.9 %	474	78.9 %	69	97.2 %

表 2 救護活動の状況

(救護班)

()内は 24 時間運営

日 時	1/17	1/26	2/7	3/1	4/1
救護所・班数	17	149(30)	156(39)	81(17)	26(4)
避難所数	497	599	539	485	416

救護所派遣人数 144 団体 延べ 49,765 人 (1/17～3/31)

診療件数 延べ 231,082 件 (1/17～3/31)

(仮設歯科診療所)

(巡回歯科診療)

設置箇所数 11 カ所

稼働班数 21 班

診療件数 延べ 2,242 件

実施避難所数 126 カ所

診療件数 延べ 1,714 件

表 3 精神科救護所相談件数

(1 月 22 日～3 月 31 日)

設置場所	東 灘	灘	中 央	兵 庫	長 田	須 磨	計
相談件数	1,048	728	692	682	1,670	1,432	6,252

表 4 食品衛生巡回指導件数および弁当検査件数

	1月	2月	3月	4月	計
避難所の食品衛生 延べ巡回数	799	882	429	352	2,462
避難所弁当の安全 確認検査件数	—	—	121	126	247

表 5 毛布の乾燥・クリーニング枚数

	2月	3月	4月	計
毛布の乾燥	7,474	14,932	17,265	39,671
毛布のクリーニング	—	869	2,390	3,259

表 6 神戸救護センター実績

(5月31日までの累計)

	保護収容	一時預かり	譲渡依頼	合計	飼い主返還	里親譲渡
犬	189	104	282	575	111	358
猫	52	38	131	221	21	136
他	4	1	3	8	2	4
計	245	143	416	804	134	498

表 7 火葬状況

(1月31日現在)

市営斎場	鶴越斎場	1,384	計 2,181
	西神斎場	453	
	甲南斎場	344	
他都市依頼		366	自衛隊 ヘリ 5機 〃 トラック 48台
遺族(業者) 依頼(3/7現在・判明分)	県下	765	
	県外	548	
計		3,860	

注) 1月31日現在 兵庫県警察発表による神戸市災害死亡者数 3,605人

00095074483

阪神・淡路大震災救援活動報告書

一九九五年十月十日 発行

発行者 翁 久次郎

発行所 社会福祉法人 財団 恩賜 済生会

〒108 東京都港区三田一丁目四番二八号
三田国際ビルディング 21F

編集協力／株式会社 社会保険出版社